

大阪府がん診療連携協議会 令和6年度 第2回がん看護部会議事録

日時：2025年2月7日（金） 15時30分～17時00分

場所：大阪国際がんセンター 1階 大講堂

参加者：出席簿参照

議題

1. 開会ご挨拶

がん看護部会 部会長 山根康子

がん看護部会、発足2年目となり大阪府のがん看護の質の向上に向けて各二次医療圏で本格的な勝活動を実施していただいたき感謝している。本日、がん看護部会の活動報告を楽しみにしている。本日の活動報告をもとに部会としての次年度への活動を検討していきたい。

大阪府健康づくり課 久保田総括

大阪府として本日のがん看護部会の活動報告を伺い今後の発展につなげさせて頂きたい。

2. 各二次医療圏の活動報告発表

① 豊能医療圏 市立豊中病院	副看護部長	二宮 由紀恵
② 三島医療圏 大阪医科薬科大学病院	専門看護師長	上田 育子
③ 北河内医療圏 関西医科大学付属病院	看護副部長	中村 桐子
④ 中河内医療圏 八尾市立病院	副看護局長	西村 勢津子
⑤ 南河内医療圏 大阪南医療センター	看護師長	内藤 潤
⑥ 堺市医療圏 大阪労災病院	看護師長	奥田 ゆり子
⑦ 泉州医療圏 和泉市立総合医療センター	看護師長	松山 しま子
⑧ 大阪市医療圏 大阪市総合医療センター	主幹	鯨島 百代

【質疑応答】

Q:ELNEC-Jについて無料のところはどのようにしているのか

- ・豊能医療圏：今年度に8病院での開催が決定したので予算はなく、資金や予算確保上の問題について議論し、代表施設より行政に予算を申請した。また、医療圏内の拠点病院には、研修開催の協力依頼として各施設の、院長、看護部長宛てにがん看護部会担当者等研修の担当者を業務として派遣して頂くように要望し依頼し了承を得た。

予算が限られているため、できる限り費用を抑えながら実施した。

- ・大阪市：研修会場は、今回は会場費が必要のない大阪市立総合医療センターを利用した。資金について事務局に相談したが、予算の確保ができなかった。
研修を病院内で行うか、外部施設を利用するかまた、研修を大学教育の一環として実施する可能性も検討した。

各病院から講師を派遣し（ボランティア）運営。業務との両立が課題。

継続的な運営に向けた資金調達の課題、研修施設や事務処理も課題。

受講者の研修受講料・参加費は無料とし、受講生が事前の資料印刷をして持参し、経費を抑えた運営とした。受講生自身として、昼食・雑費代として1人2500円を集め、印刷代や交通費は自己負担であった。

- ・研修運営の継続的な課題として、資金調達と運営の安定化が求められる。
運営ルールや、費用負担の公平性について大阪府の支援を求める意見があった。
- ・研修実施や事務処理の効率化を図るため、施設間の情報共有やノウハウの蓄積が必要。
- ・訪問看護との連携を強化し、研修を通じた地域医療の向上を目指す。
- ・既存の研修プログラムを参考にしながら、各施設が協力して研修の質向上に努める。
- ・資金や講師確保の課題を踏まえつつ、各病院・大阪府の協力を得ながら継続的な研修運営を目指す。

3. がん看護部会事務局（大阪国際がんセンター）からの活動報告

がん看護部会 部会長 山根 康子

- ・2024年 がん看護部会年間計画に沿って活動報告された。年度当初の計画は全て計画通り実施した。
がん看護部会主催の①連携ウェブセミナー125名参加、②Nurse Education Seminar in Osaka172名参加、③がんリハセミナー67名参加、④症例検討会69名参加があった。当センターの看護研修を府域における看護実践教育拡大として公開し、クリニカルラダー10研修に合計78名参加、がん看護専門セミナー18研修に合計139名の参加があった。また訪問看護ステーション看護師のがん看護に関するニーズの把握の調査研究を実施し、結果をがん看護部会で共有していく。大阪府がん診療連携協議会のホームページの充実として研修情報を掲載し更新している。次年度の課題として、緩和ケア充実、地域のニーズの把握、がん薬物療法チーム医療研修を考えており、学習テーマとして遺伝性腫瘍、AYA世代のがん患者さんへの妊孕性の支援を検討していくことを報告された。

4. 次年度構想：エンドオブライフケアにおける看護の質向上に向けて全体討議

山根：第4期がん対策基本計画でがん医療の中で、「緩和ケア」が、診断時から全ての医療従事者により提供される体制整備や普及啓発の強化とすべての医療従事者が診断時から治療と併せて取り組むべき施策としてあげられている。本日の活動報告から、ELNEC-Jの研修を実施した医療圏は豊能医療圏、三島医療圏（9回目の実施）、大阪市と3医療圏での成果や課題を共有した。がん看護部会としては第4期の期間中は、大阪府としてエンドオブライフケアの看護の質向上に向けて取り組んでいきたい。がん看護部会の目的の中に均てん化が示されていることから、医療圏に偏りなく質の向上を図るために、次年度は全ての医療圏でのELNEC-Jの開催を目標に取り組んでいきたいと考えている。今年度実施されていない医療圏からの意見を求める。

- ・中河内医療圏：講師確保や研修実施に向けた資金・会場確保が課題
- ・南河内医療圏：近畿大学では可能であり、近大奈良病院と合同で主催、共催と協力しながら開催していく。今後も実施可能だが、有資格者の教育や研修の無料開催の可能性、事務局を奏するかが課題
- ・堺医療圏：話し合えていない。重要な研修であることは共通認識しているが課題が多い。専門認定看護師の育成が特定行為に移行し、講師の確保・事務局・予算の問題がある。

大阪府からのサポートは得られないか。

山根：過去に 8 回 ELNEC-J を実施してきた医科薬科大学病院にそのノウハウを確認。

- ・三島医療圏：受講料は 8000 円とし、医科薬科大学病院を使用し会場費は無料だが、医科薬科大学病院所属の講師は勤務としているが、他施設は講師料を払い、資料を冊子として受講料で対応している。継続していくためには費用（講師・場所）と担当する事務局が必要である。
- ・大阪府がん診療協議会・松浦総長：課題は理解した。協議会として出来る範囲でできることを検討したい。
- ・大阪府・久保田総括：大阪府として既存の研修計画に組み込むのは回答が難しいが、共に取り組むことができるように考えていく。

山根：ご意見を多数いただき、次年度の実施に向けた実施場所、事務業務、費用、人員等の課題は理解できた。大阪府全体で実施していくにあたり、運用が医療圏毎に異なることは避けたいので、出来るだけ統一した方法で実施が出来るように、今後情報交換会等を設けながら次年度の実施に向けて取り組んでいきたい。

5. 大阪府がん診療連携協議会会長のご挨拶

- ・がん看護部会が発足して 2 年になる。がん診療拠点病院の訪問を実施している中でも、看護師が要になり、活動してくれている。今後も拠点病院が中心になり周囲の病院とも連携して大阪府下のがん医療を担って頂きたい。

大阪国際がんセンター 総長 松浦 成昭

6. その他、連絡事項

① 小児 AYA 世代の患者様へ治療費等の助成事業のご案内

「がん治療前の妊よう性・生殖機能温存」「学びと学校参加の支援」のパンフレットについて各ご施設のがん相談支援センター等へ送付していますが再度ご案内。

大阪国際がんセンターホームページ内のがん対策センターからダウンロードも可能

<https://oici.jp/ocr/>

パンフレットの背表紙に問い合わせ先を掲載していますので是非ご活用ください。

② 大阪国際がんセンターから、看護生成 AI の取り組みのインフォメーション

- ・大阪国際がんセンターと基盤研と IBM の共同研究にて生成 AI を活用し、看護カンファレンスの自動要約記録と、電話サポート部門の自動要約記録に取り組んでいるのでご紹介したい。
- ・目的は、従来の看護カンファレンスでは記録係は記録に徹してしまい、看護を語る或いはディスカッションに参加して意見を述べるのが難しい。少人数であっても参加した看護師たちがみんなで意見を述べ合い、看護を語り合える場が今の現場には必要であると考えている。日々多忙な業務の中でやりがいを持続しながら仕事を継続していくための業務負担軽減につながる取り組みである。

電話相談サポート窓口での会話を録音し、要約して記録に残す取り組みは、カスタマーハラスメント対策にもなる。

—これらの取り組みに興味になる施設は、IBM 担当者からの説明も可能であるため、ご連絡をいただきたい。

Q:看護カンファレンスの録音に関して興味があります。どこの電子カルテでもでも活用ができるのでしょうか？

→当センターは電子カルテは富士通を使用しているが、今回のアプリはI B Mの製品である。富士通でなくても対応は可能であると聞いている。詳細はI B Mとの相談にはなると思う。

③ 次年度、第1回大阪府がん診療連携協議会 令和7月6月20日（金）15時30分～

場所：大阪国際がんセンター 1階大講堂